試験区分	養護教員	受験番号		氏名	

※ 解答は、全て解答用紙に記入すること。

1 「中学校学習指導要領」(平成29年３月文部科学省) について、次の（1）、（2）の問いに答えよ。

（1） 次の文は、「第１章 総則 第１ 中学校教育の基本と教育課程の役割 2」の一部である。文中の (①)～(③) に当てはまる言葉をそれぞれ書け。

(3) 学校における体育・健康に関する指導を、生徒の発達の段階を考慮して、学校の（ ① ）を通じて適切に行うことにより、健康で安全な生活と豊かなスポーツライフの実現を目指した教育の充実に努めること。特に、学校における（ ② ）の推進並びに体力の向上に関する指導、安全に関する指導及び心身の健康の保持増進に関する指導については、保健体育科、技術・家庭科及び特別活動の時間はもとより、各教科、道徳科及び総合的な学習の時間などにおいてもそれぞれの特質に応じて適切に行うよう努めること。また、それらの指導を通して、家庭や地域社会との連携を図りながら、日常生活において適切な体育・健康に関する活動の実践を促し、生涯を通じて健康・安全で（ ③ ）ある生活を送るための基礎が培われるよう配慮すること。

（2） 次の文は、「第１章 総則 第４ 生徒の発達の支援」の一部である。文中の (①)、(②) に当てはまる言葉をそれぞれ書け。

1 生徒の発達を支える指導の充実
教育課程の編成及び実施に当たっては、次の事項に配慮するものとする。
(1) 学習や生活の基盤として、教師と生徒との信頼関係及び生徒相互のよりよい人間関係を育てるため、日頃から学級経営の充実を図ること。また、主に集団の場面で必要な指導や援助を行う（ ① ）と、個々の生徒の多様な実態を踏まえ、一人一人が抱える課題に個別に対応した指導を行う（ ② ）の双方により、生徒の発達を支援すること。

2 法令について、次の（1）、（2）の問いに答えよ。

（1） 次の文は、「学校保健安全法」(昭和33年法律第56号) の一部である。文中の (①)～(③) に当てはまる言葉をそれぞれ書け。

第29条
3 学校においては、事故等により児童生徒等に危害が生じた場合において、当該児童生徒等及び当該事故等により（ ① ）その他の心身の健康に対する影響を受けた児童生徒等その他の関係者の心身の健康を（ ② ）させるため、これらの者に対して必要な（ ③ ）を行うものとする。この場合においては、第10条の規定を準用する。

（2） 次の文は、「独立行政法人日本スポーツ振興センター法」(平成14年法律第162号) の一部である。文中の (①)、(②) に当てはまる言葉をそれぞれ書け。

第16条 災害共済給付は、学校の管理下における児童生徒等の災害につき、（ ① ）が、児童生徒等の保護者（児童生徒等のうち生徒又は学生が成年に達している場合にあっては当該生徒又は学生。次条第４項において同じ。）の（ ② ）を得て、当該児童生徒等についてセンターとの間に締結する災害共済給付契約により行うものとする。

試験区分	養護教員	受験番号		氏名	

※ 解答は、全て解答用紙に記入すること。

3 保健教育について、次の（1）、（2）の問いに答えよ。

（1） 次の文は、「教育職員免許法」（昭和24年法律第147号）の「附則」の一部である。文中の（①）、（②）に当てはまる数字や言葉をそれぞれ書け。

附則
14 養護教諭の免許状を有する者（（ ① ）年以上養護をつかさどる主幹教諭又は養護教諭として勤務したことがある者に限る。）で養護をつかさどる主幹教諭又は養護教諭として勤務しているものは、当分の間、第３条の規定にかかわらず、その勤務する学校（幼稚園及び幼保連携型認定こども園を除く。）において、保健の教科の領域に係る事項（小学校、義務教育学校の前期課程又は特別支援学校の小学部にあっては、体育の教科の領域の一部に係る事項で文部科学省令で定めるもの）の（ ② ）を担任する教諭又は講師となることができる。

（2）「喫煙、飲酒、薬物乱用防止に関する指導参考資料 高等学校編―令和３年度改訂―」（令和４年３月公益財団法人日本学校保健会）に照らして、次の①～③の問いに答えよ。

① 喫煙、飲酒、薬物乱用防止教育について、次の文中の（ ）に当てはまる言葉を書け。

特別活動では、喫煙、飲酒、薬物乱用防止教育を、「人間関係形成」「社会参画」「（ ）」の視点から指導内容を構成し、双方向の効果的なコミュニケーションや自己主張、キャリア形成に影響するプラス及びマイナスの要因の認識と対応、専門家による薬物乱用防止教室、生徒会活動における校内、家庭、地域との連携や情報発信などを取り上げることが可能である。また、それらの指導内容や活動を相互に関連付けることが有効である。

② ライフスキルについて、次の文中の（ ）に当てはまる言葉を書け。

ライフスキルは、「日常生活での様々な問題や要求に対して、建設的かつ効果的に対処するために必要な（ ）能力」と定義されている（WHO 精神保健部局）。定義は一般的であるが、具体的能力（スキル）として、意思決定、コミュニケーション、ストレス対処、目標設定などが挙げられ、それらの基盤としてセルフエスティーム（自尊感情）が位置付けられている。

③ 薬物乱用について、次の文中の（ ）に当てはまる言葉を書け。ただし、（ ）には同じ言葉が入る。

「薬物乱用」は、薬物等の物質を社会的許容から逸脱した（ ）や方法で自己使用することである。覚醒剤や大麻などの違法薬物の使用は、法に反しており「乱用」である。未成年者の喫煙や飲酒も同様である。例えば、医薬品の使用（ ）は、病気の治療や診断等であり、睡眠薬を「睡眠薬遊び」のために使うことは（ ）の逸脱であり、「早く治りたい」、「効きがよくない」という自己判断でのむ量を増やすことは使用法の逸脱でありどちらも「乱用」と言える。

試験区分	養護教員	受験番号		氏名	

※ 解答は、全て解答用紙に記入すること。

4 感染症について、次の（1）～（3）の問いに答えよ。

（1） 次の疾患は、「感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律」（平成10年法律第114号）の第６条に掲げられている感染性の疾患の一部である。このうち、「一類感染症」に当てはまるものを次のア～カから全て選び、その記号を書け。

ア マールブルグ病　イ ジフテリア　ウ ペスト　エ コレラ
オ 結核　カ ラッサ熱

（2） 次の疾患は、「学校保健安全法施行規則」（昭和33年文部省令第18号）の第18条に掲げられている、学校において予防すべき感染症の一部である。このうち、「第一種」に当てはまるものを次のア～カから全て選び、その記号を書け。

ア 細菌性赤痢　イ エボラ出血熱　ウ 腸チフス　エ 腸管出血性大腸菌
オ 急性灰白髄炎　カ 髄膜炎菌性髄膜炎

（3） 「学校において予防すべき感染症の解説」（平成30年３月公益財団法人日本学校保健会）に照らして、次の①～③の問いに答えよ。

① 咽頭結膜炎について、次の文中の（　　）に当てはまる病原体名を書け。

（　　）による発熱、結膜炎、咽頭炎を主症状とする疾患である。感染経路は、飛沫感染、接触感染であるが、塩素消毒が不十分なプールでの目の結膜からの感染もある。主要症状が消退した後２日を経過するまで出席停止となる。

② 食中毒について、次の文に当てはまる細菌を下のア～カから一つ選び、その記号を書け。

下痢、血便、嘔吐、発熱を症状とする、食中毒における急性細菌性腸炎である。発症数週間後にギランバレー症候群を併発することもある。

ア 腸炎ビブリオ　イ 黄色ブドウ球菌　ウ セレウス菌　エ 腸管出血性大腸菌
オ カンピロバクター　カ ボツリヌス菌

③ ノロウイルスによる感染性胃腸炎について、次のア～カの正誤の組合せとして最も適切なものを下のA～Fから一つ選び、その記号を書け。

ア 嘔吐と下痢が突然始まる。
イ 春～夏にかけて、乳幼児の感染が多い。
ウ 感染経路は、空気感染（塵埃感染）、飛沫感染、接触感染、経口（糞口）感染である。
エ り患した乳幼児は時に下痢便が白くなることもある。
オ 多くは10～14日で治る。
カ 脱水に対する予防や治療が最も大切である。

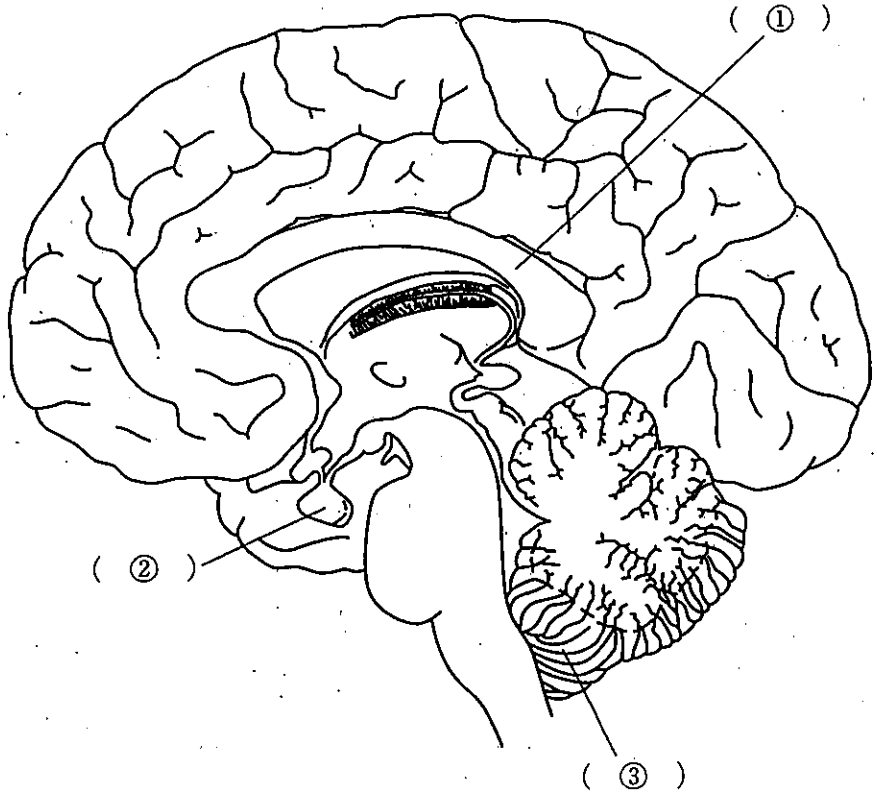
	ア	イ	ウ	エ	オ	カ
A	正	誤	誤	誤	正	正
B	誤	誤	誤	正	誤	誤
C	正	正	正	誤	正	正
D	誤	正	誤	正	誤	誤
E	正	誤	正	誤	誤	正
F	誤	正	正	正	正	誤

試験区分	養護教員	受験番号		氏名	

※ 解答は、全て解答用紙に記入すること。

5 ヒトの脳について、次の（1）～（3）の問いに答えよ。

（1） 次の図は、脳を大脳縦裂で縦断し、右大脳半球の内側面をみた図である。図中の（①）～（③）の部位の名称をそれぞれ書け。



（2） 次の文中の（　　）に当てはまる言葉を書け。

中脳、橋、延髄を合わせて（　　）という。ここには、生命維持に不可欠な呼吸、循環、意識、覚醒・睡眠、排尿反射などの諸中枢がある。

（3） 大脳皮質のうち、側頭葉に局在する機能について、最も適切なものを次のア～カから一つ選び、その記号を書け。

ア 運動野　　イ ブロカ野　　ウ 感覚野　　エ 味覚野　　オ 視覚野　　カ 聴覚野

試験区分	養護教員	受験番号		氏名	

※ 解答は、全て解答用紙に記入すること。

6 救急処置について、次の（1）～（5）の問いに答えよ。

（1） 次の文は、「高等学校学習指導要領 解説 保健体育編 体育編」（平成30年７月文部科学省）の「第２章 保健体育科の目標及び内容」の一部である。文中の（ ）に当てはまる言葉を書け。

(イ) 応急手当
⑦ 応急手当の意義
適切な応急手当は、傷害や疾病の悪化を防いだり、傷病者の苦痛を緩和したりすることを理解できるようにする。また、自他の生命や身体を守り、不慮の事故災害に対応できる社会をつくるには、一人一人が適切な連絡・通報や（ ）も含む応急手当の手順や方法を身に付けるとともに、自ら進んで行う態度が必要であること、さらに、社会の救急体制の整備を進めること、救急体制を適切に利用することが必要であることを理解できるようにする。

（2） 原則として医行為又は医師法第17条、歯科医師法第17条及び保健師助産師看護師法第31条の規制の対象とする必要がないと考えられる行為を次のア～オから全て選び、その記号を書け。

ア 水銀血圧計で血圧を測定すること
イ 水銀体温計により腋下で体温を計測すること
ウ 耳垢塞栓の除去を行うこと
エ 自己導尿を補助するため、カテーテルの準備、体位の保持などを行うこと
オ 肌に密着したストマ装具のパウチの取り替えを行うこと

（3） 腹部打撲について、誤っているものを次のア～オから一つ選び、その記号を書け。

ア 腹部臓器は、打撲により、内臓破裂や消化管穿孔を起こしやすい。
イ 血尿が見られたら、腎臓破裂または損傷の可能性がある。
ウ 脈が弱い、ぐったりしている、顔色が悪いなどショックのサインが認められたら、内臓破裂による腹腔内出血の可能性がある。
エ 受傷後数時間経過してから発熱が見られたら、腹膜炎を起こしたと考える。
オ 脾臓は小さな臓器であり、損傷を受けてもほとんど出血しない。

（4） 応急手当における呼吸の観察について、次の文中の（ ）に当てはまる数字を書け。ただし、（ ）には同じ数字が入る。

傷病者の胸と腹部の動きを見て、ふだんどおりの呼吸をしているかどうかを観察する。呼吸の観察には（ ）秒以上かけないようにする。ふだんどおりの呼吸がない場合、あるいは約（ ）秒観察しても判断に迷う場合は、直ちに胸骨圧迫を行う。

（5） アトピー性皮膚炎で常用する外用薬について、「学校のアレルギー疾患に対する取り組みガイドライン―令和元年度改訂―」（令和２年３月公益財団法人日本学校保健会）に照らして、下線部①～⑤の中で誤っているものを一つ選び、その番号を書け。

アトピー性皮膚炎の薬物療法は外用（塗り薬）が中心である。外用薬としては、炎症を抑えかゆみを軽減させる作用を持つものが用いられる。具体的には、ステロイド外用薬とステロイドではないタクロリムス軟膏が最も一般的である。
１日１～２回、患部を清潔にした後に外用薬を必要量①すりこみ塗り伸ばす。浸出液が出てジュクジュクしていたり、②とびひなどの細菌感染症を起こしている場合は、表面を③ガーゼや包帯で覆う必要がある。
タクロリムス軟膏は、塗った後に④ひりひりしたりほてったりすることがあり、また外用した日は⑤強い紫外線照射を避ける必要がある。

試験区分	養護教員	受験番号		氏名	

※ 解答は、全て解答用紙に記入すること。

7 健康診断について、次の（1）、（2）の問いに答えよ。

（1）「児童生徒等の健康診断マニュアル―平成27年度改訂―」（平成27年８月公益財団法人日本学校保健会）に照らして、次の①～④の問いに答えよ。

① 保健調査について、下線部ア～カの中で誤っているものを一つ選び、その記号を書け。

事前に児童生徒等のア健康状態を把握し、保健調査票を活用することにより、健康診断がより的確に行われるとともに、診断の際の参考になるなど、健康診断を円滑に実施することができる。また、イ個人のプライバシーに十分配慮しつつ、保健調査票の活用により家庭や地域における児童生徒等のウ社会的背景を把握するとともに、学校において日常のエ健康観察を行い、これらの結果のほかオ新体力テストの結果を健康診断の結果と併せて活用することなどにより児童生徒等の保健管理及びカ保健指導を適切に行う必要がある。

② 心疾患・腎疾患の児童生徒を対象とした学校生活管理指導表は、疾患の重症度により、指導区分をA, B, C, D, Eの５段階に分け、適切な生活指導が行うことができるように表示したものである。次の文に当てはまる指導区分を記号で書け。

同年齢の平均的児童生徒にとっての軽い運動にのみ参加可。

③ 聴力は平均聴力で示される。次の場合について、４分法により算出した平均聴力を書け。

500Hzの閾値30dB、1000Hzの閾値40dB、2000Hzの閾値50dB

④ 児童生徒健康診断票（歯・口腔）への記入上の注意について、誤っているものを次のア～オから全て選び、その記号を書け。

ア 歯列と咬合の状態及び顎関節の状態について、定期的観察が必要の区分は２で記入する。
イ 歯垢の付着状態について、ほとんど付着なしの区分は０で記入する。
ウ 現在歯は乳歯、永久歯ともに該当歯を斜線または連続横線で消す。
エ 処置歯は、該当歯に○を記入する。ただし、処置はしているがむし歯の再発等により処置を要するものは未処置歯とする。
オ 要注意乳歯は、保存の適否を慎重に考慮する必要があると認められた乳歯とし、該当歯にCOを記入する。

（2） 心電図検査について、「学校心臓検診の実際　スクリーニングから管理まで―令和２年度改訂―」（令和３年３月公益財団法人日本学校保健会）に照らして、誤っているものを次のア～オから一つ選び、その記号を書け。

ア 現行の学校心臓１次検診では、心電図検査が唯一の客観的所見である。
イ 致死的不整脈、心筋疾患などの発見・診断には心電図所見が欠かせない。
ウ RS波は、心室起電力を示す。RSの低電位差は、小児の場合、心筋全体の機能低下というより、肥満などによる胸郭の壁の肥厚を示唆しているといえる。
エ 異常に深いQ波は、誘導部位近位心筋の機能不全を示す所見である。
オ ST接合部およびST区間の下降は、成人と同じく心筋の虚血性変化を考える。

試験区分	養護教員	受験番号		氏名	

※ 解答は、全て解答用紙に記入すること。

8 環境基準について、次の（1）、（2）の問いに答えよ。

（1） 学校環境衛生基準について、令和４年３月文部科学省告示第60号に照らして、次の文中の（①）～（⑤）に当てはまる数字をそれぞれ書け。

【教室等の環境に係る学校環境衛生基準】

○換気及び保温等

検査項目	基 準
温度	（ ① ）℃以上、28℃以下であることが望ましい。
一酸化炭素	（ ② ）ppm以下であること。

【飲料水等の水質及び施設・設備に係る学校環境衛生基準】

○水質

(1) 水道水を水源とする飲料水（専用水道を除く。）の水質

コ．遊離残留塩素

給水栓における水が、遊離残留塩素を（ ③ ）mg/L（結合残留塩素の場合は、（ ④ ）mg/L）以上を保持するように塩素消毒をすること。

(4) 雑用水の水質

ア．pH値

5.8以上（ ⑤ ）以下であること。

（2） 微小粒子状物質（PM2.5）について、次の①、②の問いに答えよ。

① 微小粒子状物質（PM2.5）に係る環境基準について、平成21年９月環境省告示に照らして、次の文中の（ア）、（イ）に当てはまる数字の組合せとして最も適切なものを下のA～Fから一つ選び、その記号を書け。

１年平均値（ ア ）$\mu g/m^3$以下であり、かつ、１日平均値が（ イ ）$\mu g/m^3$以下であること。

	ア	イ
A	10	25
B	10	35
C	15	35
D	15	45
E	20	25
F	20	45

② 平成25年に環境省が設置した「PM2.5に関する専門家会合」で示された「注意喚起のための暫定的な指針」に照らして、次の文中の（ア）～（オ）に当てはまる言葉や数字の組合せとして最も適切なものを下のA～Fから一つ選び、その記号を書け。

大気中に浮遊している2.5μm以下の小さな粒子のことで、従来から環境基準を定めて対策を進めてきた浮遊粒子状物質（SPM）よりも小さな粒子である。PM2.5は非常に小さいため、肺の奥深くまで入りやすく、呼吸器系への影響に加え、（ ア ）系への影響が心配されている。注意喚起のための暫定的な指針は、（ イ ）つのレベルに区分されている。レベルⅡは、１日平均値（$\mu g/m^3$）が（ ウ ）超であり、不要不急の外出や屋外での長時間の（ エ ）をできるだけ減らすレベルである。注意喚起に際して、午前中の早めの時間帯に判断する場合には、５時～（ オ ）時に判断する。

	ア	イ	ウ	エ	オ
A	循環器	2	50	激しい運動	9
B	循環器	2	70	激しい運動	7
C	循環器	3	70	運動	9
D	消化器	2	50	運動	9
E	消化器	3	50	激しい運動	7
F	消化器	3	70	運動	7

試験区分	養護教員	受験番号		氏名	

※ 解答は、全て解答用紙に記入すること。

9 健康相談及び保健指導について、「教職員のための子供の健康相談及び保健指導の手引―令和３年度改訂―」（令和４年３月公益財団法人日本学校保健会）に照らして、次の（1）～（4）の問いに答えよ。

（1） 養護教諭は、職務の特質から児童生徒の心身の健康問題を発見しやすい立場にあると言われる。この養護教諭の職務の特質について、誤っているものを次のア～オから一つ選び、その記号を書け。

ア 全校の子供を対象としており、入学時から経年的に成長・発達を見ることができる。
イ 活動の中心となる保健室は、守秘義務を果たすため利用時間を制限するなど、安心して話ができる。
ウ 子供は、心の問題を言葉に表すことが難しく、身体症状として現れやすいので、問題を早期に発見しやすい。
エ 保健室頻回来室者、不登校傾向者、非行や性に関する問題など様々な問題を抱えている子供と保健室でかかわる機会が多い。
オ 職務の多くは、学級担任をはじめとする教職員、学校医等、保護者等との連携の下に遂行される。

（2） 保健指導の目的について、次の文中の（ ）に当てはまる言葉を下のア～オから一つ選び、その記号を書け。

個別の保健指導の目的は、個々の児童生徒の心身の健康問題の解決に向けて、自分の健康課題に気付き、理解と関心を深め、自ら積極的に解決していこうとする自主的・（ ）な態度の育成を図るために行われるものである。

ア 行動的　イ 意欲的　ウ 実践的　エ 共感的　オ 協調的

（3） 不登校及び保健室登校について、誤っているものを次のア～カから全て選び、その記号を書け。

ア 高校生の不登校に対しては、登校することにこだわらず生徒に適した進路変更も含めた相談を進め、引きこもりにならないように関係機関との連携も積極的に取り組んでいく必要がある。
イ 不登校の背景がある程度明らかになった後は、家庭訪問や保護者を介して児童生徒と意思疎通を図ることになるが、受容的な面接を通じて自然に再登校の意欲がわくまで待つことが重要である。
ウ 保健室登校は不登校状態から再登校を目指すステップとして、あるいは、教室に入りづらい生徒が不登校にならずに学校生活を送る手段として、不登校問題の解決の一助となっている。
エ 保健室利用状況調査（平成28年）によると、保健室登校の開始月は、小学校・中学校・高等学校ともに９月が最も多く、開始学年は、中学校・高等学校ともに第１学年が多かった。
オ 保健室利用状況調査（平成28年）によると、保健室登校している児童生徒がいる割合は、中学校が最も多かった。
カ 対応が長期化していくことも考え、同じ指導方法を継続するよう保護者や関係教職員が十分認識しておく必要がある。

（4） 小学校低学年を過ぎるころから出現する可能性のある障害について、次の文中の（ ）に当てはまるものを下のア～カから一つ選び、その記号を書け。

行為障害や（ ）は、意図的な社会規範の逸脱や大人への反抗という形で現れるため、生徒指導上の問題として取り上げられやすいが、実際には専門医による治療を必要とする障害であり、メンタルヘルスの視点からの対応が必要となることに留意する必要がある。

ア チック障害　イ てんかん　ウ 注意欠陥多動性障害　エ 広汎性発達障害
オ 反抗挑戦性障害　カ アニバーサリー反応

試験区分	養護教員	受験番号		氏名	

※ 解答は、全て解答用紙に記入すること。

10 学校保健関係者について、次の（1）～（3）の問いに答えよ。

（1） 次の文は、「学校教育法施行規則」（昭和22年文部省令第11号）の一部である。文中の（　　）に当てはまる言葉を下のア～オから一つ選び、その記号を書け。

第45条
4 保健主事は、校長の（　　）を受け、小学校における保健に関する事項の管理に当たる。

ア 指示　　イ 命令　　ウ 示教　　エ 監督　　オ 指導

（2）「保健主事のための実務ハンドブック―令和２年度改訂―」（令和３年３月公益財団法人日本学校保健会）に照らして、次の①～③の問いに答えよ。

① 保健主事の役割について、次の文中の（　　）に当てはまる言葉を書け。

保健主事は、「学校保健と学校全体の活動に関する調整」、「学校保健計画の作成」、「学校保健に関する組織活動の推進」などの中心となり、すべての教職員が学校保健活動に関心を持ち、それぞれの役割を円滑に遂行できるように企画、連絡・調整、実施、（　　）、改善などの働きかけをすることが求められる。

② 学校保健計画作成上の留意点について、次のア～カの正誤の組合せとして最も適切なものを下のＡ～Ｆから一つ選び、その記号を書け。

ア 保健室経営計画を十分生かし、児童生徒や地域の実態、学校種別、規模等に即して自校の実情にあった計画を作成する。
イ 収集した情報を活用して、学校の実態に即した適切な計画にする。
ウ 学校の教育方針、諸行事を考慮して、実施内容を網羅し、有機的な関連をもたせる。
エ 保健管理と保健組織活動の関連を明確にしておく。
オ 関係教職員の理解を深めるとともに、責任分担を明確にする。
カ PTA、家庭や地域社会の保健活動との連携を図る。

	ア	イ	ウ	エ	オ	カ
A	誤	正	誤	誤	正	正
B	正	正	正	正	誤	誤
C	正	誤	正	誤	正	誤
D	誤	正	誤	正	誤	正
E	誤	誤	正	正	正	誤
F	正	正	誤	誤	誤	正

試験区分	養護教員	受験番号		氏名	

※ 解答は、全て解答用紙に記入すること。

③ 学校保健委員会について、次のア～カの正誤の組合せとして最も適切なものを下のA～Fから一つ選び、その記号を書け。

ア 学校保健委員会は、学校における健康の問題を研究協議し、健康づくりを推進する組織である。
イ 様々な健康問題に対処するため、家庭、地域等の教育力を充実する観点から、学校と家庭、地域を結ぶ組織として学校保健委員会を機能させることが大切である。
ウ 学校保健委員会については、昭和33年の学校保健法等の施行に伴う文部省の通知において、学校保健計画に規定すべき事項として位置付けられている。
エ 養護教諭が人、設備・用具、経費、情報などの各要素を調達・活用し、企画力、リーダーシップを発揮することが期待されている。
オ 学校保健委員会の組織を確かに運営するため、構成員は固定化する。
カ 学校において、学校保健委員会の位置付けを明確化し、先進的な取組を進めている地域の実践事例を参考にするなどして、質の向上や地域間格差の是正を図ることが必要である。

	ア	イ	ウ	エ	オ	カ
A	誤	誤	正	誤	正	誤
B	誤	正	誤	正	誤	正
C	正	誤	正	正	正	誤
D	正	正	正	誤	誤	正
E	正	誤	誤	正	正	誤
F	誤	正	誤	誤	誤	正

(3) 学校医の職務について、「学校保健安全法施行規則」（昭和33年文部省令第18号）の第22条に照らして、誤っているものを次のア～オから一つ選び、その記号を書け。

ア 学校保健計画及び学校安全計画の立案に参与する。
イ 学校の環境衛生の維持及び改善に関し、学校薬剤師と協力して、必要な指導及び助言を行う。
ウ 感染症の予防に関し必要な指導及び助言を行うが、学校における感染症及び食中毒の予防処置には従事しない。
エ 校長の求めにより、救急処置に従事する。
オ 職務に従事したときは、その状況の概要を学校医執務記録簿に記入して校長に提出する。

試験区分	養護教員	受験番号		氏名	

※ 解答は、全て解答用紙に記入すること。

11 子どもが抱える現代的な健康課題について、次の（1）～（5）の問いに答えよ。

（1） 次の文は、過換気症候群について述べたものである。文中の（ ）に当てはまる言葉を書け。

何らかの原因、たとえばパニック障害や極度の不安、緊張などで息を何回も激しく吸ったり吐いたりする状態（過呼吸状態）になると、動脈血の（ ）濃度が低くなり、呼吸をつかさどる神経（呼吸中枢）により呼吸が抑制され、呼吸ができない、息苦しさ（呼吸困難）を感じる。このため、余計に何度も呼吸しようとする。血液がアルカリ性に傾くことで血管の収縮が起き、手足のしびれや筋肉のけいれんや収縮も起きる。このような症状のためにさらに不安を感じて過呼吸状態が悪くなり、その結果症状が悪化する一種の悪循環状態になる。

（2） 自殺対応について、「生徒指導提要」（令和４年12月文部科学省）に照らして、次の（ ）に当てはまる言葉を、アルファベット大文字で書け。ただし、（ ）には同じ言葉が入る。

自殺の危険の高まった児童生徒への関わり

自殺の危険に気付いたときの対応の参考になるのが、「（ ）の原則」である。

（ ）の原則
- 心配していることを言葉に出して伝える。
- 「死にたい」と思うほどつらい気持ちの背景にあるものについて尋ねる。
- 絶望的な気持ちを傾聴する。話をそらしたり、叱責や助言などをしたりせずに訴えに真剣に耳を傾ける。
- 安全を確保する。一人で抱え込まず、連携して適切な援助を行う。

自殺未遂が校外で発生したり、救急措置を要請したりしない場合でも、児童生徒の安全を確保した上で、「（ ）の原則」に基づいて、受容的な態度で児童生徒の苦しい気持ちを受け止めるよう傾聴に努めることが大切である。そうすることで、心の安定がもたらされ、再発防止にもつながる。

（3） 次の文中の（ ）に当てはまる言葉を書け。

（ ）は、主に思春期に好発し、自律神経失調症の一種とも考えられている身体の病気である。循環系の自律神経機能の調節不全により、脳や全身に必要な血液がいきわたらないので、立ちくらみやめまい、動悸、朝起き不良、倦怠感や頭痛・腹痛など、様々な症状を現す。起床時に症状が強く現れて、登校できなくなる子どももいる。

（4） 次の文は、「生命の安全教育指導の手引き」（文部科学省）に示されている、生命（いのち）の安全教育のねらいの一部である。このねらいを達成することを目指す発達段階として適切なものを下のア～オから一つ選び、その記号を書け。

自分と相手の体を大切にする態度を身に付けることができるようにする。また、性暴力の被害に遭ったとき等に、適切に対応する力を身に付けることができるようにする。

ア 幼児期　　イ 小学校低・中学年　　ウ 小学校高学年　　エ 中学校　　オ 高校

試験区分	養護教員	受験番号		氏名	

※ 解答は、全て解答用紙に記入すること。

(5) 心的外傷後ストレス障害（PTSD）について、「子どもの心のケアのために―災害や事件・事故発生時を中心に―」（平成22年７月文部科学省）に照らして、次のア～カの正誤の組合せとして最も適切なものを下のＡ～Ｆから一つ選び、その記号を書け。

ア 災害や事件・事故に遭遇すると、「その時の出来事を繰り返し思い出し、悪夢を見たりする」、「体験した出来事が目の前で起きているかのような生々しい感覚がよみがえる」などの症状を来たすことがある。
イ 災害や事件・事故に遭遇すると、「よく眠れない」、「イライラする」、「怒りっぽくなる」、「落ち着かない」など、感情や緊張が高まる覚せい亢進症状を来たすことがある。
ウ 災害や事件・事故に遭遇した後の諸症状は、誰でも起こり得ることであり、ほとんどは時間の経過とともに薄れていくが、６週間以上長引く場合をPTSDという。
エ 症状が必ず和らいでいくことを伝え、安心感を与えることが重要である。
オ ふだんの生活リズムを取り戻すことは、PTSDの予防にならない。
カ 体験を連想させるものからの回避症状は、PTSDの症状である。

	ア	イ	ウ	エ	オ	カ
A	正	正	誤	誤	正	誤
B	誤	正	正	正	誤	正
C	正	誤	誤	誤	正	誤
D	誤	誤	正	誤	正	誤
E	正	正	誤	正	誤	正
F	誤	誤	正	正	誤	正

試験区分	養護教員	受験番号		氏名	

解答用紙

得点	

1	(1)	①		②		③						
	(2)	①		②								
2	(1)	①		②		③						
	(2)	①		②								
3	(1)	①		②								
	(2)	①		②		③						
4	(1)			(2)								
	(3)	①		②		③						
5	(1)	①		②		③						
	(2)			(3)								
6	(1)		(2)		(3)		(4)		(5)			
7	(1)	①		②		③	dB					
		④		(2)								
8	(1)	①		②		③		④		⑤		
	(2)	①		②								
9	(1)			(2)		(3)						
	(4)											
10	(1)		(2)	①		②		③		(3)		
11	(1)			(2)		(3)						
	(4)			(5)								

試験区分	養護教員	受験番号		氏名	

解答例　得点400点

配点

問1～問7　　8点×35＝280点

問8～問10　　5点×16＝ 80点

問11　　8点× 5＝ 40点

得点	

1	(1)	①	教育活動全体	②	食育	③	活力					
	(2)	①	ガイダンス	②	カウンセリング							
2	(1)	①	心理的外傷	②	回復	③	支援					
	(2)	①	学校の設置者	②	同意							
3	(1)	①	3	②	教授							
	(2)	①	自己実現	②	心理社会的	③	目的					
4	(1)	ア、ウ、カ（完答）		(2)	イ、オ（完答）							
	(3)	①	アデノウイルス	②	オ	③	E					
5	(1)	①	脳梁	②	脳下垂体（下垂体も可）	③	小脳					
	(2)	脳幹		(3)	カ							
6	(1)	運搬	(2)	イ、エ（完答）	(3)	オ	(4)	10	(5)	①		
7	(1)	①	ウ	②	C	③	40dB					
		④	ア、オ（完答）	(2)	エ							
8	(1)	①	18	②	6	③	0.1	④	0.4	⑤	8.6	
	(2)	①	C	②	B							
9	(1)	イ		(2)	ウ	(3)	イ、オ、カ（完答）					
	(4)	オ										
10	(1)	エ	(2)	①	評価	②	A	③	D	(3)	ウ	
11	(1)	CO_2 （二酸化炭素、炭酸ガスも可）		(2)	TALK	(3)	起立性調節障害 （ODも可）					
	(4)	イ		(5)	E							